

平成28年度 学校評価結果

学校法人土岐学園

土岐幼稚園

1. 園の教育目標

- ・元気でのびのび遊ぶ子
- ・素直で思いやりのある子
- ・想像力が豊かな子
- ・一生懸命取り組む子

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ・幼稚園の教育目標・保育方針を踏まえ、現状に合った保育の編成
- ・教員は教育内容を精査し、内容の改善に主体的に取り組む
- ・教育の質の向上のため、園内外の研修を充実させる
- ・地域に開かれた園を目指し、未就園児とその保護者を対象にした保育を行う

3. 評価項目の達成および取り組み状況

| | |
|--------------|---|
| 1. 教育活動とその成果 | <ul style="list-style-type: none">・全教員で幼児の発達の姿をとらえるための話し合いを定期的実施。また、日々子どもたちの姿についての話し合いを毎日行い、クラスの実態把握や意見交換を行った。このことにより、本園の教育方針を基盤として、保育内容や指導計画作成の見直しと充実化が図れた。・行事は子どもたちの生活に無理のないよう精選され、今年度の実態に合った行事を吟味し、行えた。行事ごとに振り返りを行い、来年度に活かせる内容になった。・全職員での情報の共有にも努め、職員同志の「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」の意識向上により、子ども一人ひとりの課題や成長の理解、保育（預かりも含む）の中での配慮点などを、密に共有しあうことが出来た。 |
| 2. 特別支援計画 | <ul style="list-style-type: none">・配慮が必要な子どもについては補助を付け支援している。・担任・補助で指導について話し合いや共通理解を持って、その子にあった指導を心掛けた。保護者とのコミュニケーションも頻繁にとることが出来た。・年長児であった場合は、小学校入学前に進学先の小学校との連携を図り、進学に対して不安や滞りがないように配慮した。長期休みなどで連絡がスムーズにいかないこともあったので、今後この反省を生かしたい。 |
| 3. 研究・研修 | <ul style="list-style-type: none">・年二回の園内研修を設け、指導案立案→検討会議→実践→反省を経て、共通の保育観や現在の課題を共有することが出来た |

| | |
|------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園協会主催の研修に参加し、年齢に応じた保育（遊び・運動・絵本など）、小学校の授業参観、他の園の保育実践などについて学ぶことができた。 |
| 4. 保護者との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・登降園時の送り迎えの時に園児の状況を相互に伝達することができ、きめ細やかな対応を通して関係の構築が出来ていると考えている。 ・行事の手伝いを通じて、子どもの姿に直に触れられる機会となり、保護者同志のコミュニケーションの活性化につながっていると認識している。しかし、働く親が増えている現状も鑑み、保護者に負担のないよう会長と話し合い進められた。 ・保護者有志の方が子どもに向けた音楽コンサートを開催し、好評であった。 ・保護者のボランティア活動が発足4年目を迎え、園の教育環境が豊かになっている。 |
| 5. 子育て支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・5月より未就園児ルーム「たんぼぼ」を開設し、就園前の親子のサポートに努めた。地域では、0・1・2歳児のサポートも求められているとの声もあり、来年度から0・1・2歳の支援も検討している。 ・子育て支援「預かり保育」は朝の預かり（8：00～9：00）を開始、降園後の預かりも（14：30～17：00）に延長し、利用者が増加した。 ・「親業」について講師を招き、子どもを持つ親に向けて講演会を開催し、好評だった。卒園児の保護者も招くことができ、今後は地域の方々にも開けるような講演会の開催を目標としたい。 |
| 6. 安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の避難訓練を実施し、園児の安全管理に努めた。今年度は10月に消防署の防火指導も受け、子どもも職員も防災に対する意識の高まりがみられた。 ・月1回遊具の安全点検、環境整備の日を設け、問題個所の発見と改善を心掛けている。プールの蓋とミニハウスは木製のため劣化が見られるので、修繕を業者に依頼している。 ・個人情報の盗難が地域で発生したこともあり、重要書類の管理についての見直しと、より一層徹底した管理を全職員で行う。 |
| 7. 教育環境整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育中の安全管理については教師の声掛けや環境整備によって大きな怪我はなく済んだ。以前、降園後の園庭での怪我が多かったこともあり、降園後は遊具に「おやすみ」の看板を付け、速やかに帰宅してもらうよう職員で声掛けをしている。 ・夏場は園庭に日よけを取り付け、熱中症などの予防に努めた。 |
| 8. 地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の育成委員の方に園行事の手伝いをしていただき、地域との関係を築いている。 ・幼保小の交流会、中学生の職場体験、教育実習生受け入れなど、地域とのつながりを持つ活動は積極的に取り入れている。 ・保育所（ナーサリーアークさん）への園庭開放と保育参加の受け入れ。（月1回） |
| 9. 園の財務状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。 |

4. 学校評価（自己評価）の総合的な評価結果

- ・年間計画の精査、毎月のカリキュラム計画の検討、日々の指導案の立案を通し、これまでの園での保育を見直しながら、現状に合った保育の編成が出来た。また、研修の実施や日々の保育の振り返りを丁寧に行うことで、より良い保育を目指すという教員の意識の向上にもつながった。
- ・全教員でクラス運営や子どもの育ちについての理解・協議・検討に時間をかけている。このことにより、教員相互の学びにつながるだけでなく、子ども一人ひとりの成長に教職員全員で関わる意識が出来ている。今後も、教職員間で切磋琢磨しながら良い保育ができるよう努めていきたい。
- ・未就園児ルームの開設により、地域の中で関係を求めていた家族への支援が一步前進した。担当する教員も開設一年目ということもあり、試行錯誤しながら日々努力と工夫をしている。今年度のこの動きにより、今地域で求められているものは何かが見えてきたところもあるので、今後は0・1・2歳の子を持つ家族への支援を検討していきたい。

5. 今後取り組むべき課題

| | |
|----------|--|
| 保育内容 | 今の子どもたちに必要な保育は何かを熟考し、検討、導入もしくは変更する。体操指導の週1回の導入を主に、保育内容・行事について職員会議にかけ内容検討をしていく。 |
| 教育環境の整備 | 園庭整備に伴い遊ぶスペースは増えたが、虫探しのスペースが少なくなってしまう。植物の植え付けなどで、虫取りが以前のように楽しめるような環境にできるように取り組んでいく。 |
| 子育て支援の充実 | 働く母親が増え、保育所に子どもを通わせる親が増加している。中には、条件によっては幼稚園へ通わせたいと望む親もいるので、そのようなニーズに応えるためにも、半日保育・預かり時間の延長などを検討する必要がある。 |
| 情報提供 | ホームページから幼稚園の情報を得る保護者が多い状況を受け、ホームページの更新、情報公開をもっと積極的に行うべきである。 |